九州地方

名前

問1　九州地方に位置するある県の農業統計において、食用鶏（ブロイラー）の生産量が全国シェアの約20.5%を占め全国有数の規模となっているほか、茶の生産量でも全国4位に位置している県はどこですか。（2020年 滋賀県公立入試 類似）

1. 宮崎県
2. 岩手県
3. 鹿児島県
4. 熊本県

問2　日本の諸地域の統計において、人口は約137万人（2016年時点）で、海岸線の延長が4000kmを超えるという際立った特徴を持つ長崎県について、海岸線がこれほどまでに長くなっている地理的な理由として最も適切なものはどれですか。（2020年 埼玉県公立入試 類似）

1. 九州地方で最大の面積を持ち、東側と西側の両方が外海に広く面しているため
2. 火山活動による溶岩の流出によって、平坦で直線的な海岸線が延々と形成されたため
3. 対馬や五島列島など数多くの島々を抱え、入り江の入り組んだ複雑な海岸線を持つため
4. 大規模な干拓事業が繰り返された結果、人工的な海岸線が大幅に増設されたため

問3　熊本県における農業の地域的特徴について説明した文として、適切なものはどれですか。（2026年 徳島県公立入試 類似）

1. 平野部や干拓地などを活用した農業が盛んで、全国屈指の農業産出額を誇り、特に野菜の生産額が多い。
2. 年間を通して降水量が非常に少なく乾燥しているため、水利用を抑えた小麦や大豆の栽培が主流である。
3. 山間部の傾斜地を利用した果樹園が多く、みかんやすももなどの果実の生産額が県全体の過半数を占める。
4. 冷涼な気候を生かした露地栽培が中心であり、夏季におけるキャベツやレタスの出荷量が全国一である。

問4　福岡市の月別降水量を分析すると、6月から9月にかけての月間降水量が150ミリメートルを大きく上回るピークが形成されています。初夏の梅雨の時期に加え、特に晩夏から初秋にかけて降水量が著しく増加する要因として、九州地方の地理的条件に関連する最も適切な説明はどれですか。（2021年 神奈川県公立入試 類似）

1. シベリア高気圧から吹き出す冷たく湿った北西の季節風が、山地にぶつかり上昇気流を発生させる。
2. 夏から秋にかけてオホーツク海高気圧が発達し、冷涼で湿った北東の風が吹き込み続ける。
3. 地理的に台風の進路にあたりやすいため、激しい雨をもたらす熱帯低気圧の影響を強く受ける。
4. 対馬海流の影響で大気が安定し、年間を通じて雨の少ない瀬戸内式の気候を形成する。

問5　日本の地方別統計において、農業生産額の割合が全国の約20.7%と高く、特に宮崎平野などでビニールハウスを用いた園芸農業が盛んな地域があります。この地域で、冬でも温暖な気候を利用し、ピーマンなどの野菜の収穫・出荷時期を人工的に早める栽培方法を何といいますか。（2015年 大分県公立入試 類似）

1. 促成栽培
2. 近郊農業
3. 抑制栽培
4. 高冷地農業

問6　都市の人口構造に関する記述として、那覇市（昼夜間人口比率 約109.6%）と、その隣接する豊見城市（同 約92.2%）の関係性を正しく説明しているものを選んでください。（2018年 沖縄県公立入試 類似）

1. 那覇市は行政や経済の中心地としての役割が強く、豊見城市は那覇市へ通う人々の住宅都市としての側面が強い。
2. 那覇市は観光開発によって一時的な滞在者が増えており、豊見城市は農業を中心とした自給自足的な地域である。
3. 那覇市ではドーナツ化現象により夜間人口が急減しており、豊見城市では都心回帰現象により夜間人口が急増している。
4. 那覇市と豊見城市の間で、日中の買い物客の移動が双方向に均等に行われていることを示している。

問7　日本の諸都市の気象データにおいて、一月の平均気温が十度前後と高く、かつ七月の月降水量が三百五十ミリメートルを超える非常に多い降水量を示す都市として、最も適切なものはどれですか。（2023年 福井県公立入試 類似）

1. 金沢市
2. 宮崎市
3. 札幌市
4. 大阪市

問8　ある地域の気候統計において、6月から9月にかけての降水量が非常に多く、いずれの月も150ミリメートルを大きく超えるとともに、台風が接近する晩夏から初秋に顕著な雨量の増加が見られる場合、その地域の説明として正しいものはどれですか。（2021年 神奈川県公立入試 類似）

1. 中央高地に位置しており、標高が高いため年間を通じて降水量は少なく一定である。
2. 北海道地方に位置しており、梅雨の影響を全く受けないため夏から秋の降水量は極めて少ない。
3. 九州地方に位置しており、夏から秋にかけての降水量が気候上の大きな特徴となっている。
4. 北陸地方に位置しており、冬の季節風の影響で12月から1月にかけて降水量のピークがある。

問9　宮崎県において、冬でも温暖な気候を活かした農業が発達した理由を、海流の性質と地形の観点から説明した記述として最も適切なものはどれですか。（2021年 東京都公立入試 類似）

1. 寒流と暖流がぶつかる潮目にあたるため海面温度が安定し、平野部を流れる河川が常に霧を発生させて作物を保護するため。
2. 沖合を流れる寒流が夏場の気温上昇を抑える一方で、南側の平野部が日射を長時間受けることで年間平均気温が高まるため。
3. 北部の山地から吹き下ろす乾燥した冷たい風が、暖流の湿った空気と混ざり合うことで、ビニールハウス内の温度を一定に保つため。
4. 沖合を流れる暖流が周囲の気温を下げにくくし、さらに北部の山地が冬の冷たい季節風を遮る役割を果たしているため。

問10　日本の諸地域に見られる伝統的な住居の工夫について述べた次の文のうち、南西諸島の特徴を説明したものとして正しいものはどれですか。（2020年 和歌山県公立入試 類似）

1. 住居の北側や西側に「防風林（屋敷林）」を植えることで、冬の厳しい寒風を防いでいる。
2. 屋根の傾斜を急にし、厚い茅（かや）で葺くことで、雪が滑り落ちやすくしている。
3. 地面から床を高くした高床式の構造にすることで、地面からの湿気を通さないようにしている。
4. 敷地の周囲を石垣で囲い、屋根には赤瓦を用いてその隙間を漆喰で固めている。

問11　日本の諸地域の気候を統計資料から判別する場合、宮崎県（宮崎市）のデータに該当する特徴的な数値の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2019年 山形県公立入試 類似）

1. 8月の平均気温は約28度まで上がるが、年間の降水量は1200mm程度と非常に少ない。
2. 1月の平均気温が約10度と高く、さらに6月と9月に降水量の大きなピークが見られる。
3. 1月の平均気温が約5度であり、12月から2月にかけての降水量が1年で最も多い。
4. 1月の平均気温が氷点下となり、年間の降水量は季節による大きな変動がなく一定である。

問12　九州・沖縄地方の産業構造について、人口密度が約632.7人/㎢で、第3次産業の割合が約80.7%と極めて高い数値を示す県があります。この県の第3次産業がこれほどまでに高い割合を占めている背景として、最も適切な説明を選択してください。（2020年 和歌山県公立入試 類似）

1. 広大な平野を利用した大規模な稲作が行われ、農産物の加工業が発展しているため
2. シリコンアイランドと呼ばれ、IC（集積回路）の生産工場が沿岸部に集中しているため
3. 亜熱帯の気候や独自の文化を活かした観光業が、県の経済を支える中心となっているため
4. 鉄鋼業や化学工業などの重化学工業が古くから発展し、第2次産業を牽引しているため